

喜多流大島能楽堂 第265回定期公演  
2020年11月15日 能「唐船」が35年ぶりに上演されました！！



能「唐船」 2020年11月15日 喜多流大島能楽堂

太鼓 大川典良 大鼓 亀井広忠 小鼓 飯田清一 笛 竹市学

シテ (祖慶官人) 大島政允

子方 (唐子) 大村稔生 大島伊織

子方 (日本子) 荒木七海 狩野直奈

能おもしろ草紙 ミニ版 1号

「唐船」の帆に思いを託す

大島泰子

十月下旬のある夜、衣恵がお稽古場の鴨居に「唐船」に使う四色の幕を掛けていた。三十五年ぶりに掛けられた幕には無駄な皺は一つもなく、実に綺麗にしまわれていたことがわかる。養父久見が丁寧に折りたたみまっすぐれていたのでしょう。

嫁入り時の白無垢が四色に染まり、「唐船」の帆となり四人の我が子の成長を見守ってくれました。三十五年の歳月を経て、今度は孫達に四色の帆に守られ、成長してくれることでしょう。  
今後共、ご支援宜しくお願い申し上げます。

令和二年十一月上旬

「唐船」を終えて

大島政允

能「唐船」は子方四名が登場しますので、なかなか上演することが難しい曲目です。昭和六十一年九月二十一日、第二百二十三回大島能楽堂定期公演にて養父大島久見がシテを、子方を衣恵と輝久、文恵と紀恵が務めました。この度、第二百六十五回にて私がシテを、子方を孫の伊織と七海、大村定氏のお孫さんの稔生くん、狩野了一氏の姪の奈直さんが務めてくれました。無事に終え、ほっとしています。

大島輝久

唐子二名は関東在住、日本子の七ちゃん、福山、奈直さんは熊本と離れ離れの子方四名のお稽古をどのようにするか、大変でした。前日の申し合わせで初めて四名揃いました。長い謡を覚えることも長い時間舞台で座っていることもよく頑張りました！

令和二年十一月十五日